



食害生物からアサリ資源を守るために

新木更津市漁業協同組合江川地区活動グループ

地域の特徴

木更津市は、千葉県中西部に位置し、東京湾に面す。市内には小櫃川が流れ、その河口に日本最大級の盤洲干潟が広がっている。

当地区は、小櫃川河口の南にあり、地先の盤洲干潟を利用した漁業が古くから営まれている。

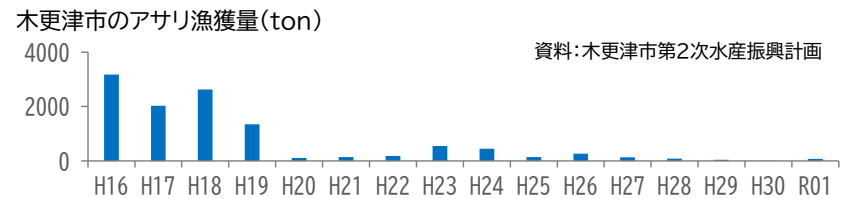


対象資源の現状

当地区では、盤洲干潟で育まれるアサリを対象とした漁業が盛んに営まれている。しかし、アサリ漁獲量が、現在、大きく減少している。

この減少は、カイヤドリウミグモの大量発生や、食害、自然災害、生息環境の変動などによって、アサリ稚貝の生存率が低下していることが主な要因と考えられる。

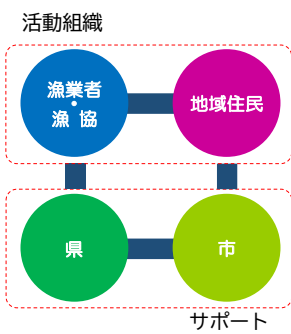
アサリ漁獲量の減少に伴い、それを対象とする貝類漁業者が、現在、わずか数名にまで減少した。また、本市内では潮干狩りが盛んであり、アサリ資源の回復・維持は、親水空間である潮干狩り場においても喫緊の課題となっている。



組織の設立及び活動方針

アサリ資源の回復・維持を目的に、平成 25 年度に「江川漁業協同組合活動グループ」を設立した。当グループのメンバーは、新木更津市漁協江川支所所属の組合員と職員を中心に構成した。また、漁業関係者の子供や、サラリーマンを引退した地域住民に声掛けをして参加者を募っている。

当活動組織の活動方針は、アサリ稚貝の生残率を向上させることを目的に、①機能低下を招く生物の除去、②食害対策、③天然稚貝の定着促進、④海底耕耘による漁場改善を進めることとした。



活動実績

- ①機能低下を招く生物の除去（腹足類）…ツメタガイの成貝及び卵塊、カイヤドリウミグモの除去を実施。
- ②保護区域の設定（囲い網の設置）…クロダイ及びアカエイの食害対策、波浪の軽減を狙いとして、囲い網を設置。特にクロダイは、近年の海水温上昇に伴い、冬場の摂餌行動が活性化しており、アサリやノリの食害が増加している。
- ③テグスの設置…スズガモの食害対策として、囲い網の支柱間にテグスを設置。スズガモによる食害は、活動組織外の人からの「カモがアサ

- リを食べているのではないか」という話がきっかけとなり発覚した。漁業者の視点だけでは想像できなかった思いがけない発見であった。
- ④被覆網の設置…当地区内で発生する天然稚貝をより定着させるために、保護区内に被覆網を設置。
- ⑤海底耕耘…コアマモ除去による底質改善として、トラクターを用いた海底耕耘を実施。コアマモは底層における緩流効果があるため、稚貝の定着を促進する一方で、密生するとアサリが底質に潜ることができなくなり、アサリの生息環境として適さない環境を招く。
- ⑥モニタリング…①～⑤の取組の効果を把握するために、アサリの生息密度を計測。



活動の効果と課題

モニタリング地点におけるアサリ生息密度は、H29 年までは順調に増加し、資源の回復に期待がもてた。しかし、H29～R1 年にかけて生息密度が減少した。これは、スズガモによる食害や台風等の災害による影響と考えられた。

一方で、R1 および R2 年は 3.8～11 mm のアサリの稚貝の生息密度が過去 5 年間で最大となり、再び資源が回復することに各メンバーが期待をよせているところである。

当活動グループは高齢化が進行しており、メンバーの約 8 割が 70 代である。そのため、活動にかかる労力負担の軽減、および若手の確保が課題となっている。現在、労力負担が大きくなっている作業の一つとして、囲い網に絡まったゴミの処理が挙げられる。囲い網にゴミが絡まった際には、網の破損や支柱が倒れることを防ぐためにその都度除去作業を行っている。特に台風や大雨の後、河川から流出した大きな流木が絡まることも多々あり、これらの除去作業は高齢者にとって大きな負担となっている。本活動を継続していくためにも、今後は若手の確保を図り、労力負担を分散させることができればと考える。

